

海軍應用戰術

海軍應用戰術

緒言

本日ヨリ應用戰術ノ講究入りマス。此應用戰術ナルモノ吾々カ已ニ講究シマシテ處、基本戰術ヲ如何ニシテ實際ニ應用スヘキカヲ攻究スル處、兵學ノ一科程テアリマシテ、素ヨリ特ニ應用戰術ト稱スル戰術カ之ニ九ト云フノデハアリマセン唯々學術上、便宜ヨリ設ケラレタル科別ノ名稱デ丁度基本化學、應用化學、或ハ基本三角術、應用三角術ト稱別ス方如キモゲアリマス。若シ之トニ適當ノ名稱ヲ下セバ、應用戰術ト謂フヨリハ寧口戰術ノ應用法トモ稱ス方ガ至當カモ知ラセシ。然シテ又基本ノ原則ヲ實地ニ應用シテ現實ニ戰鬪スル活術ガ、戰術ト云フ見地ヨリスル、之ヲ應用戰術ト稱シテモ敢テ差支ハアリマセン。

近世諸學術ノ講究法ヲ見マスニ凡テ簡易ナル學術ハ大抵其ノ基本的智識ニテ座シテ攻究シマシテ之ガ應用ノ方法ニ至リテ別ニ之ヲ攻究セシメテ直ニ其ノ基本的智識ヲ實際ニ活用スル事業ヲ遂行スル様ニナリテ居リマスガ、複雑ナル學術

ニリマス、基本的講究ニ次テ更ニ其應用ニ要スル智識ヲ座トニ研得セシテ教例
 トシテ居リマス、例ハ彼ノ柔術、如キ至極簡易ナル技術ハ先ツ其ノ基本戰術ト謂
 フキ型ヲ一通リ習得シテ直ニ乱拵ニ入リマシテ、實際ニ活用ニテカラ稽古ヲ積ム
 コウニツテ居リマスガ複雑ナル技術ニルトス、如ク基本ノ型ヲ直接實用トシテ
 次第ニ行カズ又其ノ應用法ニ関スル特別ノ智識ヲ要シマス。海軍戰術ニ於テモ
 亦其ノ型トモ謂フヲ基本戰術ニ艦隊ノ編制トカ、隊形トカ、運動法トカ或ハ戰
 法トカ、如キモテ攻究ニテアリマスガ、諸テ之ヲ實際ニ應用スルニ當リテ、基本的戰術以
 外高キ時場合ニ處スル應用上ノ變化及之ニ要スル心術其心術ト方術ノ関
 係等、如キ凡テ應用際ニ必要ナル素識ヲ研得練磨シ置カテバナリマセシ是
 ト即チ海軍戰術ノ講究ニモ應用戰術ノ一科ガ設ケラレタル所以ニアリマス、免テ用基
 本ト云ヒ又應用ト云ヒ唯タ戰術講究ノ科別ニ戰術其物ニ異ナル處ハ無イデアリマス
 儲テ然ル此應用戰術ヲ如何ニテ座トニ研究スルカト云ハ固ヨリ無形ノ心術ヲ彼
 基本的方術、如ク數理又ハ形式ヲ以テ名状説明シ出来難イモチアリマスカラ多

古来戦例ヲ引キ或ハ特新戦例ヲ假想シテ各種場合ニ於テ對抗軍ノ
 成敗利鈍因テ起ル原因并ニ之ヨリ生ズル結果等ヲ討究シテ戦術應用ノ利
 害得失ヲ考查以テ應用ニ要スル吾人ノ智識ヲ練磨スルデアリマス、
 兎ニ角諸他ノ學術ト同様ニ此戦術ニ於テモ真髓肝心ト云フ處ハ多ク應
 用ノ部ニ存シテ居リマシテ應用ノ適否依リテ成功失敗ノ分カレモデアリマスカラ、軍ニ
 斯ク座シテ應用ノ方法ヲ講究スルニ至ラズ、尙ホ實戦又ハ演習等ニ臨ミ實
 際場數ヲ履テ修練ヲ積ミ應用熟達セル戦士トナラナレバナリセシ。世
 ハ往々百ノ基本的素識ヲ有シテ十ニサテ應用ノ出来ル人トモアル、又十
 モヲ百ニ變化シテ自在ニ應用スル達人モアリマスガ吾々ノ期望スル處ハ前者
 トマ、寧ロ後者ト出来得ルナクハ百ノ基本的智識ヲ得テ十ニモ萬ニ應
 用シテキ次第デアリマス。

明治三十六年九月

秋山海軍少佐

海軍應用戰術

第一章

総説

第一節

戰略戰鬪關係

作戰目的及計畫

凡ソ戰軍若ク戰役ニ於テ對抗軍ノ直接目的ト
 所ハ其作戰攻勢ヲト申勢ヲトシ敵ヲ屈スニアリ。此目的ヲ達セカ爲
 取ル處ノ手段多クアリテ或敵ノ兵力ヲ殲滅シ或敵ノ要地ヲ占略シ或
 敵ノ兵資ヲ奪略シ或敵ノ交通ヲ遮断ス等如何ニ敵ノ抵抗力ヲ減殺シテ
 痛困ラ感セシメ遂ニ我ニ屈服スルニ得サルニ至ラニシカ爲メナリ。此等ノ手段
 ヲ撰ムニ固ク寸毫モ制限スルナク如何ニ手段ヲ取テ敵ノ屈服スル目的ニ適合
 スルニ可ナリ。此等ノ手段ヲ指シテ兵術上於テ戰目的ト稱ス。手段目的ト
 謂ス。取ル可ナリ。雖モ凡百ノ人軍皆テ斯ク如何ニ目的ヲ達セカ爲メニ手段
 ヲ生シ手段ヲ遂行セカ爲メ又第二目的ヲ生シ即チ第一ノ手段カ第二目的
 トシ其又第二ノ手段カ第三目的トスルニ可ナリ。例ハ身體ヲ健全トスル目的ヲ

進セシ爲轉地若クハ運動ト云フカ如キ手段ヲ取リ其又運動スルニテ第二目的
 ヲ達スル爲メ柔術或ハ水泳ヲルカ如キ第二ノ手段ノ生ズル一般ナリ。即チ戦争又
 戦後於テ直接ノ目的トシテ敵ヲ屈スルニテトモ、其作戰目的ノ直接ノ目的
 ヲ達スル爲メ取リタル手段例ハ敵ノ要地ヲ占領スルニテ云フカ如キ手段ヲ指シテ謂フ
 ナリ。故ニ作戰目的ハ時ニ戰勢ニ準シ種々変テ或ハ敵ノ全軍ヲ殲滅セシメテ
 其ハ或ハ其一部ヲ撃破セシメテモアリ、又ハ單ニ敵ノ交通線ヲ遮断セシメテモアリハ或
 ハ敵ノ要地ヲ占領セシメテモアリ、即チ此等ノ作戰目的ヲ決定シ軍隊ヲ
 其戦域内ニ運用シテ之ヲ達成セシメテ技術ヲ戦略ト謂ヒ其ノ計畫ヲ作
 戦計畫ト謂フナリ。本編ニ謂フカ、戦略ハ直接ノ戰鬥ヲ支配スル戦略ヲ指ス
 モリテ、戦後以上ヲ支配スル大戦略等ヲ指スハ、アラズ
 (戦略ノ要旨) 作戰目的ノ種々アリテ之ヲ達成セシメテ技術ヲ戦略トセルニト
 前述セルカ如シ。然ラズ戦略ハ如何ナル第二ノ手段ヲ以テ其決定セル作戰目的ヲ達
 スルニテ此等ノ手段モ亦多クアリテ可シ。戰鬥封鎖、牽制、佯撃、陽動
 威嚇、誘致等、如キ皆此ノ手段ニ属スルモノナリ。戰鬥ヲ破壊手段ハ實ニ其

今手段ニ過カス。故ニ戰略ハ其作戰目的ヲ達成スル手段トシテ常ニ必ツ
 戰闘ヲ撰ムモノナラスニテ、爲シ得ル戰闘以外他非戰闘的手段ニ依
 リテ欲スルモノナリ。例ハ茲ニ敵ノ兵力ヲ殲滅セトスル作戰目的ヲ達セトスル戰略於
 ニ見直シ我兵力ヲ以テ敵衝突ニ戰闘ヲ以テ力ツクニ敵撃滅セトスルカ、如思惟
 亦雖戰略此場合ニ於テラ尚ホ爲シ得ル限リ戰闘ヲ避ケ我カ損害
 ヲ出来得ル限リ少クシテ敵ノ勢力ヲ挫カトシ遮リ力戰奮闘ヲ要求スルモノ
 ナス。今マ實例ヲ引キテ之ヲ證明セシ、日清戰争中ノ山東役ニ於テ我カ日
 軍ハ威海衛ニ現存セル敵ノ艦隊ヲ殲滅スルヲ作戰目的トシ此目的ニ對シテ作
 戰計畫ノ概要ハ我カ艦隊ノ主力カ海上ニ間接ニ敵ヲ威海衛ニ封鎖シ、
 又其一部ハ登州府ヲ佯撃シテ陸上ノ敵ヲ四方ニ牽制シ、又我陸軍一個師
 團半ハ急遽榮城灣ヨリ上陸シ、東方ヨリ威海衛ノ陸上背面ニ進出シ、他
 部ト連絡ヲ遮斷シ以テ敵ヲ屈セトシタリ。此戰略實施ノ結果ハ頗ル良
 好ニシテ海陸共ニ大ニ戰闘ヲ唯々僅カニ我水雷艇隊ノ夜襲ニ二三砲

墨對_ニ威嚇砲撃及水雷艇隊追撃_ヲ止_リ海上_ニ於_テ主カ_ト主
 カ_リ衝突_ト認_ルキ大戰鬥_ヲ又陸上_ニ於_テ僅カ_ニ前衛部隊_ノ衝突_ヲ
 全師團_ノ戰鬥_ト見_ルキ現象_ハ更_ニ無カ_リシ。然_レ敵_ハ海上_ニ威壓セ
 陸上_ニ連絡_ヲ断_ルテ遂_ニ方屈_シテ降服_スル_ニ已_ムキ至_リ北洋艦隊_ハ茲_ニ
 全滅_シ我軍_ハ其作戰目的_ヲ達_スル_ヲ得_メリ。之_ヲ以_テ見_ルキ山東後_ノ作戰目的
 或程度迄戰鬥_{以外}他_ノ手段_ヲ採用_シル_ニ戰略上_ノ成功_ニ歸_セカ_ル得_ス。
 是_レ即_チ古_ノ兵家_ノ所謂_「百戰百勝_ハ善_ク善_{ナル}モ_ト言_フ。
 ス_ル之_ヲ善_ク善_{ナル}キ_ト謂_フナル_ニ兵術_ノ要_上自_ニ或_ル程度迄適合_シル_モシ_レテ
 茲_ニ前述_シル_ニ水雷艇夜襲_モ陸上_ノ戰鬥_モナ_クシ_テ全海陸壓迫_ト登州府_ノ
 牽制砲撃_等如_キ手段_ヲ依_リテ威海衛_カ陥落_シタ_リト假定_スル_ニ之_レ即_チ
 真正_ノ善_ク善_{ナル}キ_{ナル}ベ_シ左_ナキ_ト山東後_ノ戰果_ハ頗_ル多大_{ナル}モ_シ我軍_ノ損害
 僅_ク少_{ナル}反_シ敵_ハ一時_ニ定遠鎮遠_ヲ始_メ速_速濟遠平遠_{廣丙}
 其他砲艦水雷艇_等十數隻_ヲ失_ヒ加之陸兵_ノ大部_モ劉公島_ノ要地_ヲ失_フ

名々斯々、却完全ニ作戰目的ヲ達シ得ル戰略戰闘ヨリ、寧ロ他ノ手段
 ニ依ル處多カリニナリ

更ニ他ノ實例ヲカニ、今日清戰ノ第一段於ニ日軍作戰目的ハ敵最強要
 地名旅順ヲ占領セントスルニ而シテ此作戰ニ於ケル戰略實施ノ現象如何ノ觀察スルニ
 曩ニ朝鮮半島後ヲ平壤ニ勝テ我陸軍第一軍ヲ徐々ニ滿州境上向ツテ北進
 シ之カ爲此方面清軍ノ大部ヲ牽制誘致シ、關東半島ノ衛戍長官トシテ宋慶
 ノ如ク殆ド其麾下ノ全方ヲ率ヒテ鳳凰城附近ニ出テ来リ。又黃海ニ勝テ艦隊
 ハ海上ニ制壓シ、事實上於テ金州半島三面ヲ包鎖シ、陸上蓋平方面ヨリ、外旅順ニ
 援軍ヲ未ダ加ヘ阻セリ。即チ第一軍ノ鴨綠江附近於テ牽制動作ト艦隊海上
 制壓ヲ相俟ツテ殆ド旅順方面ヲ空虚ナシ、旅順大連於テ敵ノ守備多クハ
 附近ノ新募兵等ニ委任サレテ有様ナリ。此於テ大同江集會ニ我第二軍
 ノ中間地矣、謂フニ花園河口上陸ヲ急シ、金州方面ニ進出、敵唯一北方交
 通線ヲ遮斷スルヲ以テ、關東半島ハ今四面交通ヲ絶シ、最早曩中ノ物トナシ、大

連旅煩。此時既陷落。リト認テ可ナリ。蓋第二軍ヲ金州大連旅煩。如キ
 敵諸要地。何レモ半日若ク一日ノ戰鬥ヲ以テ容易ク占略得ルモノ。前述ノ戰略能
 ク其効ヲ奏シ各地ニ於テ敵抵抗力比較的減少シタルカ爲メ。若シ宋慶ノ率
 タル大軍が大連金州等ニ在シ又海上ヲ經テ天津等ヨリ旅煩ニ増援ノ到着
 シタラニ。第二軍如何精悍ナリトモ斯ク容易ク攻略ノ功ヲ奏スルコト能ハカリテハシ。
 此實例ニ就テ觀察スモ。作戰成功ノ程度。迄戰略歸スルト明白ニテ又假リ
 此作戰於テ旅煩大連等ノ敵抵抗力皆無トナル迄。其戰略ガ成功シタリトスル
 第二軍ハ及ニ血ヲ流シテ。作戰目的タル敵要地ヲ占略スル得テ。全然戰略ノ
 成功ニ及リ。戰鬥現象ヲ見カリシナリ。孫子カ城ヲ拔ク之ヲ攻ムニアラズ。リト説キ
 シ。蓋斯ク如クヲ謂フナリ。是ヲ以テ之ヲ見ルニ。戰略ハ戰鬥ヲ主要ノ手段ト爲サ
 ズ。却テ之ヲ無クシテ。目的ヲ達スルヲ上策トシ。其要トスル所ハ。即チ「戰ハミテ敵ヲ屈
 ス」ノ旨ニ歸着スルナリ。

此ヲ學ブニ。戰事若クは戰役ニ於テ。對抗軍作戰目的ハ。單ニ敵ノ移動兵力ノミニ

固定要點、移動物質アリ。又無形交通連絡等モアリテ此等種々ノ
 作戦目的ヲ達スル爲メ取ルべき手段ハ更ニ益々多ク之アリ、必スモ常ニ戦局ヲ率タルニ
 要ス。戦略要旨ハ寧ニ戦局ヲ避ケテ作戦目的ヲ達スル上兼トシ好シ又戦局ヲ率
 タルモ戦略其戦局地点、即チ戰場於テ可成的イ兵力ヲ敵ニ比較シ優勢ナラシムルカ
 或彼ヲシテ劣勢ナラシメテ容易ク敵ヲ壓倒スル期ニ決シテ力戦苦闘シテ得難ク勝
 利ヲ強テ得ントスルヲ努メサルナリ。此ノ敵對シイ兵力ヲ優勢ナラシムル我ニ對シ敵ノ兵力ヲ
 劣勢ナラシメントスル程度ニ固ニ際限アルトナク彼ノ二ニ對スル我ノ三、ヨリハ彼ノ二ニ對スル我
 ノ四、五トシ更ニ四、五、六、七、八ト我ノ兵力ヲ敵比シテ多ク益々大ナラシムル期セリ、而シテ
 其極度ハ彼ノ零トスルハ我ハ一兵力ヲ能ク敵對シ無限大ノ優勢ナルニ取着ス我
 ノ兵力ヲ無限大ニシカ敵ノ抵抗力ハ皆無ナラシムルハ戦局遂ニ成スル能ハサルカ故ニ
 之ヲ戰略要旨ハ戰ハミテ敵ヲ屈スルノ一原則ニ取一セサルヲ得サルナリ
 (戰略的手段トシテ戰鬥價値)斯ノ推究シ来テ戰略的手段トシテ戰鬥價値ハ
 真ニ僅小ナルカ如ク寧ニ封鎖、牽制、佯動、威嚇等ノ如ク他ノ手段ヲ敵ヲ屈スルニ如

カサルカ如シ。然リ如何ナク作戰ニ於テモ戰用ハ出来得ル丈ケ避ケサル可ク仔シ金ケ之ヲ
 避クル能ハストスルモ、尙ホ我兵力ヲ敵ニ比テ優勢ニ保チ以テ其戰用ヲ可成大ケ容
 易ナクサレ可ク。是實ニ兵理ニ原充戰略ノ原則ニシテ、動カカラカレモノナリ。然リトモ
 此来、戰例徴スルモ、全ク戰用ナクシテ作戰目的ヲ達シテ實例ハ真ニ稀少ニシテ多クノ
 場合於テ或ル程度迄戰用ナル破壊手段ニ依ラシク作戰目的ヲ達スル能ハカルヲ察
 ス、現ニ前ニ列例シテ日清戰争中ノ山東後於テモ水雷艇ノ夜襲又ハ砲台攻撃
 如ク戰用動作カ此ノ作戰ノ成功ヲ助ケルコト少カラス。又遼東後於テモ旅順ノ戰
 作戦目的ヲ達スル爲メ直接ニ其力ケシテ敵ヲ屈スル手段トシテ戰
 直接且單純ナルミナラズ、成功迅速ナル到底他ノ手段ヲ以テスルモ及ハサル処ニシテ
 打撃ヲ加ヘタル敵ハ其兵力ヲ減殺サルノミナラズ、士氣ハ挫折ニ編制ハ破壊
 ンテ立トコトモ其抵抗力ヲ失ヒ比較的ニ交戦ノ時日ヲ短クシテ作戰目的ヲ達
 利益アルヲ。戰用以外ノ他ノ手段ヲ以テスルモ常ニ交戦時日ヲ延長セシメ、勇敢
 敵往々総ニ困難ヲ忍テ斃ルニ追抵抗ヲ持續スル下アリ。前例、山東後ニ於テモ

水雷艇隊の襲撃等、以テ敵一部ヲ車陣沈ニシル等カ大ニ敵降伏ヲ速カサシメタルハ疑ナ
 又旅順於テ艦隊ハ卑海岸封鎖ニ陸軍ヲ唯陸上背面一帯ヲ包围シテ持
 久ノ策ヲ取リタリトスル敵ニ長時ノ後ニ遂ニ糧竭ヲ氣屈ニテ降伏シタルハ、ト云テ
 彼旅順口戰鬥以テ一日ニテ陥落セシムル如ク迅速ノ結果ヲ見ル能ハサルヤ必セリ斯
 如ク戰鬥ヲ避ケテ戰略ニ成功カ比較的長時日ヲ要スルトハ古今ノ戰例實証
 所又理當固然ラカラルル処ニシテ交戰時日ノ延長ハ諸損甚害ヲ及元生シ
 内部ハ天災、疾疫、軍需缺乏等、如ク原因ヲ漸次ニ我兵力ヲ減少シ、又外部
 敵援軍増加、或ハ他方面ニ於テ我ヲ作戰ニ不利カ當該方面作戰ニ影響
 漸次ニ戰勢ヲ変化シ終ニ我ニ不利ナルニ至ルトガ往々之シタルモノナリ。故ニ戰略一原
 則トシテ可成丈々戰鬥ヲ避ケルヲ可トシ戰鬥ニ依ルハ拙劣ト認メラルトシ、實際ニ臨ミテハ
 拙劣トシテモ戰鬥ヲ以テ速ニ作戰ヲ終局セシムルガ却テ作戰目的ノ達ス徑捷ノ手段ト
 ナルナリ。固ニ交戰時日ヲ延長シタルハ必ズ之ヲ思ヒシキニテト云モ多ク、場合於テ思
 結果ヲ呈スラザルナリ。故ニ古ノ兵家ニ於テハ、戰ミテ敵屈スルヲ善シ、善ナルモノト教

へ又他方於テハ兵の拙速ヲ闕ク一歩巧ク又シテ觀ヲキリト戒居レリ。即チ拙
 ナリト速カクハ可トシ巧ミナク久シキ直ク又不可トシ。戰鬥ニ依ル拙カナルトモ速ニ依
 戰ノ目的ヲ達スヲ以テ結局善ナルモノナラハ可ニナルニ至ル、
 斯ク多シ場合於テ戰鬥依リ拙速ニ作戰目的ヲ達スル必要アリトス。戰略實施上ニ
 於テ戰鬥避ケンル欲スモ避ラ可カラサルト多ク、爲メニ戰略對スル戰鬥關係ハ頗ル
 密接ナリ其戰鬥成敗ハ直接又ハ間接ニ其作戰成敗トスル故ニ常ニ最ニ之ヲ
 重要視セラルヘカラサルナリ。而シテ其戰鬥ハ戰術ヲ以テ戰ハルモノナリ。已ニ戰略ガ其戰
 闘ヲ爲サシムル以上其衝突地矣。即チ戰場於テハ勝敗ノ決ハツニ戰術巧拙依リ
 最早戰略其ル所ナリ。故ニ戰術巧拙其作戰第一要件トナリ。此如キ時着ニ
 戰略拙カニシテ我々優クシテ敵ノ衆對シニカキ下ルモノ、其場於テ戰術巧妙ナルト
 夫能ク我々優クシテ敵ノ衆ヲ破リ戰略短所ヲ補フ同時作戰ノ目的ヲ達シ得ラ
 ルモノナリ。夫ニ戰士トシテ戰術ハ講究練磨ハ戰略ヲモテ要ニシテ古來兵術ノ講
 究於テ戰術ガ第一位ニ置カレモ、又其故ナキニアラサルナリ。

之ヲ要スニ戦闘戦略實施ノ手段ニ過スニ夫戦略必スモ戦闘ヲ爲サズ不
 可成夫々戦闘ヲ避ケルモナラハ故ニ原則トシテ戦略上必要アリテアラハ
 濫リ戦
 闘スルモムアスト雖モ多ク場合於テ戦闘ニ依ル外迅速作戰目的ヲ達スル
 得ル
 以テ之避ケト欲スニ避ク可シサルヲ常トシ軍ニ原則トシテ拍泥スヘキ
 ナラズトテ
 外
 戦路上戦闘起ル場合前收述ヘ来リタ戦略對ニ戦闘ノ關係ハ凡テ對抗軍
 ノ方ニ就テ之ヲ主觀的ニ立論シタルモノテ未タ之ヲ以テ直ニ戦闘其物カ成
 立スルモノ
 即断スキニテモ何トナレハ戰爭ト戦闘ト間ハ凡テ兵戰ナルモノ男女カ夫婦ノ契
 約ヲ夫カ如ク相對的ニ成立スルモノニ對抗軍双方ノ意志カ相一致セサルト夫
 其處
 ニ戦闘起ルモノニアラズ例ハ茲ニ我優勢ノ軍ガ敵方勢ノ一軍相會シテトス
 夫敵其戰略上戦闘ヲ爲マズ好マズシテ戦闘ヲ避ケルニ努ムルト夫ハ彼令我ニ挑
 戰
 意アリトスモ合戦成立セザルナリ此如キ場合於テ敵ノ拘勢ノ兵力ヲ有シテ我ト決
 戦セ下スル或敵ノ避戦セトスモ我軍之追鎗ヲ戰ハサルハ已合戦イサルニ至ラズモハ
 其處ニ初メテ戦闘成立ヲ見合得ルナリ而シテ戰略原則トシテ我方勢ノ兵力

以優勢敵戰鬥ニキアラサルガ勢ノモハ常ニ戰ヲ避クルヲ事トシ從テ戰鬥ノ成ラズ
場合比較的僅少ナリト言ハサル可也。此故ニ戰年差久戰後ニ於テ戰鬥ノ起ル
ハ左記場合外アラサルモノナリ

一 對抗兩軍戰鬥力均勢ナリトキ

二 對抗兩軍双方差久一方敵ノ戰鬥力ヲ誤算シ各其敵ニ對シ優勢又ハ

均勢ナリト誤信シタルトキ

三 對抗軍一方優勢優速ニシテ勢劣速ナル敵ヲ射迫シ戰鬥スルノ已ム

ヲ得サルニ至ラシムルトキ

四 對抗軍一方劣勢ナルモ其巧少テ戰術依リ優勢ノ敵ニ屈シ得ル自信ニ欠キ

苟モ戰鬥以上對抗軍双方共ニ勝利期ニ至リ敗戰ニ望マサルガ故ニ右四場合外

戰鬥ノ起ルキモニアラス。而シテ前記如キ場合比較的僅少ナルモノナリハ戰鬥ノ起ルモ

亦僅少ナリト断定スル外アザルナリ。之ヲ實例ニ徵シニ日清戰年終テ我日軍ノ艦隊

終ニ始敵ヲ索テ之ヲ會戰スルニ努メタルモ敵常ニ避戰戰略ヲ執リ以テ各

場ニ艦隊スルニ能ハカリニ方漸削戦後約三月ヲ経テ清國艦隊ノ其陸軍ヲ護
 衛シ鴨綠江附近迄出テ来ル時ニ我艦隊カ之ヲ黃海ニ逼シ壓迫シテ戰フ已ム
 得サルニ至リ茲ニ初テ彼ノ黃海海戰ヲ現出シ名モナリ。此時若シ清國艦隊ノ速
 力我艦隊ニ優リテ彼戰ヲ避テ旅順又大連灣等ニ避テ去リシニ此戰門ハ起
 シタル。其他トラフアルガ一海戰ハ如キモ其起リタル後ヨリ之ヲ觀察スル真ニ容易ク屬然
 ニ起リタル如クナルモ其此ニ至リテ経路較々複雑ニシテ英將ネルソンガ不屈不撓ノ
 銳氣ヲ以テ終ニ殆敵ヲ索メ大洋ヲ横リテ西印度ニ航シ敵ヲ見ステ空ニテ歐海遠
 航セラル如キ長日月宣ヒ慘憺名戰略的行動後ニ起リタルヲテ敵避戰ヲ事トスルハ
 門ノ容易ニ成ラスモニテラサルニテ事實證明ナリ。而モ彼ノトラフアルガ一ニ於テ
 子ルソノ率ル英艦隊ガ敵ニ對シ風上ト云ハタルヲ遂ニ敵ヲ追窮ニシテ彼ノ有名ナル海
 戰ヲトラフアルガ一甲前ニ現出セシタルヲ得タルモ若シ當時對抗兩軍風上ノ位置
 相轉倒シテ退戰ヲ略テ執レルヴレニテブノ聯合艦隊其最近根據地タル
 カゲズニ避退シテ子ルソノレテ彼ノ功名ヲナサシメサリシナルヘシ

前述、如實際於之、又理論於之、戰鬥容易起ルハモニアラハ明白ナリトス。
 然レ兵術思想ニ至リ、將校ハ戰鬥ノ同時直ニ戰壓ヲ聯想シテ我ニ戰
 フ決心アル容易、敵ト會ニテ砲煙彈雨ノ裡ニ相見ル得ルカノ如ク思惟ス。雖
 エ之未ダ見識足ラサルヨリ生ズル忘想ニテ戰鬥ハ斯ク容易ニ為得ルモニアラハナ
 本節複雑ナル戰略ト戰鬥ノ關係ヲ簡短ニ此ノ前ニ述ヘ尽サントシタルヲ以テ
 前後混雜ニ或ハ解シ難キ所アリ。之ヲ要スルニ戰略ノ要旨戰ハスル敵ヲ屢
 セントシ可成大ケ戰鬥ヲ避ケテ作戰目的ヲ達セントスルニ拘ラズ兵術ハ拙速ヲ
 貴ヒ或ル程度迄戰鬥ニ依ラサレハカラス。又戰略上戰鬥ニ依ラントスルモ對敵ハ
 又方ノ戰略如何ニ依リ必ズ戰鬥ノ成ズルヘキアラシテ戰鬥ハ容易ニ起リ得ル
 ニアラスト云フニ敏着ス

第二節 戰鬥目的及種別

戰鬥戰略上目的、戰鬥目的及種別、戰略上モト戰術上、モト二種ヲ
 今先ツ其戰略上目的及種別就テ説明セトス

已ニ第一節ニ述ヘタル如ク戰略ノ要旨トシテ戰鬥ハ必スニモ為スヘキニテ又シテ守ル
 之ヲ避クテモテ然レトモ多ク場合ニ於テ之ヲ避クトキハ拙速ノ要旨悖ルヲ以テ遂ニ
 ラ爲サル可キルニ至ルモナリ。而シテ其戰鬥ヲ為スベキカ又ハ為スベカラサルカノ利害得失ハ
 戰略上問題ニ屬シ茲ニ戰術ノ範圍内ニ於テ論スヘキ限リニテサルモ既ニ戰略上
 一ツ戰鬥ヲ為スニ必要トリスル其戰鬥ニ必ス何ノ爲ニ其戰鬥ヲナスカノ目的カ
 ル可キ。例ハ其戰鬥ノ敵ノ主力ヲ擊滅セシカ爲スニ或ハ多少ニ拍テ敵ノ兵力ヲ減殺
 セシカ爲スニ或ハ敵ノ行動ヲ澁滞セシメカ爲スニ或ハ敵ノ要地若クハ物資ヲ略
 取セシカ爲スニ或ハ又守勢作戦ナク敵ノ陸軍ノ上陸ヲ妨セカ爲スニ又ハ我
 軍ノ要地敵ヲ奪ハサルヲ爲スニ或ハ凡テ作戦ノ勢ト守勢トニ拍テ戰鬥ヲ為
 スニ或ハ必ス之ヲ爲ス所以目的ノ下ニ之ヲ稱シテ戰鬥戰略上目的ト謂フナリ。

此戰鬥戰略上目的、務必ニテ作戰目的ト一致スルモノナリ。作戰目的、
 其作戰終局目的ニテ、其作戰中、行ハ處、各戰鬥ハ固ヨリ直接若ク間接
 ニ其作戰目的ヲ達スル為メニスルモノナリト。雖モ此等ノ各戰鬥ハ各其局地ニ於テハ
 伎克戰略上目的ヲ以テ各地戰公モナリ。例ヘハ日清戰年、於テ清軍カ且敵
 ニ對シ旅順ノ要地ヲ奪公サル作戰目的トシテ敵陸軍カ花園口ニ上陸シテ採
 取ニ之ヲ防遏セカ為メ水雷艇隊ヲ放ツテ敵ヲ襲撃シタリト。假定セニ。敵對
 シ旅順ノ要地ヲ守ルルニ此守勢作戰ノ作戰目的ニテ、又花園口ヲ襲撃セカ水
 雷艇隊ノ敵上陸ヲ防遏スルヲ諷ヲ戰略上目的ヲ以テ此戰鬥ヲ為セルモノナリ。
 固ヨリ此戰略上目的ハ間接ニ作戰目的ヲ達スルヲ支助スルモノナリトモ、余ク之ト一
 致セルモノナリトス。然レ敵既旅順附近ニ進接シ来リ、其海陸聯合ノ攻撃ニ對シテ
 防戰ニ場合ニ、其戰鬥、戰略上目的ハ旅順ノ要地ヲ守ルルニテ、作戰目的ト一致
 スルモノナリト。更ニ日軍ノ側ニ此戰後ヲ觀察シ、勢作戰ニ於ケル其作戰目的ヲ
 如何ト固ヘハ旅順ノ要地ヲ占略スルヲ作戰目的トシ、花園口陸軍ノ上陸ヲ擁護

艦隊敵、水雷艇隊、未發擊退シタトスル其戰鬥於戰略上、目的陸軍上陸掩護スルリ。又其艦隊戰ヲ大連灣攻略ニトスル其戰鬥敵要地旅順ヲ占略スル作戰目的。對其ノ脚地ハ大連、要地ヲ先占領セトスル戰略上、目的ハ戰ハタルモノニテ、何モ其局地於特別戰略上、目的ヲ有シ未タ作戰目的ト一致セサルナリ。然ル様順於海陸聯合攻撃ノ戰鬥終局目的旅順占略一致ナルカ故此戰鬥、戰略上、目的作戰目的一致セルモノナリ

(戰鬥戰略、種別)斯但作戰於各戰鬥、各別戰略上、目的有之此目的取リ直マ其戰鬥部隊ノ有之任務ヲ形成スルモノナリ。而シテ此等戰略上、目的作戰目的ト一致スト否ト準テ、戰鬥ヲ左ノ三種ニ種別ス

- 一 本戰
- 二 支戰
- 三 不期戰

第一本戰ト其戰鬥、戰略上、目的作戰目的ト一致セルモノ、即チ直接作戰目的ヲ達セトスル戰鬥ヲ謂フ。例黃海戰、旅順戰、所等ノ如シ

第二支戰、其戰鬥、戰略上目的、作戰目的、一致セカク、即間接作戰
 の達スル支助、戰鬥、謂、例、豐島海戰、大連灣、戰鬥等、如シ
 第三不期戰、戰略上目的、有セサル、戰鬥、謂、例、豐島海戰、清軍、
 取リテ、不期戰、稱スル、適當トス
 右戰鬥、各種別、何モ對抗軍、一方ヲ觀ル、主觀的、種別、シテ、必ズモ、對
 軍、双方ニ通シ、ルモノニアラズ、故、或ハ一方、本戰ト認ム、他方、支戰、又ハ不期戰トス、
 实例、ナキ、トス。又支戰、若クハ不期戰、事ニ於テ、意外、作戰目的、達スルコトアリ、敵ノ
 所在、不明ナル場合等、往々、此、如キ、トアリ、例、敵、主カ、數千、滅セ、トス、作戰目的、
 持テ、艦隊、一部、敵、下部隊、某地、伏在セル、報、接シ、テ、擊破セ、トシ、テ、其地
 ニ至ル途上、意外、敵、主カ、ニ、遭遇シ、テ、力、戰ム、遂ニ、擊破シ、期、スレ、テ、作戰目
 の、達、ス、ト、アリ、黃海、戰、ハ、如キ、後、日、見、ル、之、本戰ト、認、ム、至、モ、我艦隊、敵ノ
 運送、船、隻、等、紅支戰、目的、持、テ、海洋、島、嶼、近、鴨、綠、江、向、針、向、
 之、敵、主カ、ヲ、遭遇シ、テ、會、戰、ス、ル、コト、モ、ト、ス、又、之、不期戰ト、稱、ス、可、キ、但、シ、戰、術、上、

本戰者支戰謂是為サトニ戰鬥戰略上目的準多種別ニモトリ
 元來戰鬥ナルハ其本戰支戰相テ其戰略上目的達セテ得ルハ一種ノ
 手段ナル前速ヘハ如クモレテ凡テ戰鬥スルニ此戰略上目的即何故ニ戰鬥ヲ為
 スカノ理由ヲ了解シテ之ニ從軍セラル可ク即此目的ヲ達スルト否トカ直接否ト間接全
 局作戰目的成否ニ關係スルモノハ唯ク目的ヲ無謀ニ戰鬥スルニ全局作戰ニ對
 シ何等ノ利益モテラサルナリ故ニ戰鬥ハ必ク其戰略上目的ヲ以テ戰ヲ要シ例令不期戰等ニ
 於テ豫メ案固サレテ戰略上目的ヲ持テタルモ其場合於テ全局戰勢ヲ推シ即時
 ニ戰略上目的ヲ定メ對戰セラル可ク而シテ多ク場合於テ其局地於テ敵ヲ屈スルハ戰
 略上目的ヲ達スル所以ニテ特ニ本戰於テ然リ也然レトモ支戰於テ敵ヲ勝ツト否トハ必ク之
 戰略上目的ヲ達スルト否トニ關係セバ徒ラ敗ルモ戰略上目的ヲ達スル下リ例ハ茲ニ一
 支隊アリテ其主隊ハ遠ク離レ敵主力ヲ海中搜索シテ之ヲ斃滅セトテ對シ此支
 隊ハ其支隊ハ其附近ノ港ニ伏在セル敵一部ヲ監視シテ外洋ニ來ル敵ノ主力ニ合
 同セシナル任勢有ル場合於テ若シ港内ノ敵逸出シ来リ其兵力意外ニ優勢ニシ

或時間之上交戦ヲ遂敗レタリトセシ。其支隊敗レタリトモ或時間敵行動ヲ滞
 セシメタルカ爲メ我主力ヲ以テ外洋ヲ未ル敵主力ヲ捜索シテ撃滅スル得セシメタリトスル
 其支隊ノ任務即チ戦路上ノ目的ハ達セラシムモノナリ。故ニ支隊又ハ不期戦ヲ於テハ
 時戦勢ニ應ジテ假令敗戦豫期スルモ戦ハカレ可ラサルコトナリテ、戦闘ニ従軍スルモノハ
 其戦闘、戦路上ノ目的ヲ服膺シテ戦フコト最モ必要ナリトス。
 (戦闘、戦路上ノ目的) 戦闘又戦路上ノ目的、外戦術上ノ目的、前者即チ
 何爲メ此戦闘ヲ決行スルカノ目的ナリモ、後者如何ニ眼前敵ト戦フカノ目的
 ナリ。此戦術上ノ目的ニ就テ古今兵家ノ説々異同アリテ、泰西兵家ハ「戦闘
 戦術上ノ目的ハ我最少ノ損害ヲ以テ敵最大ノ損害ヲ與フルニリ」ト云ヒ又ハ「敵ノ兵
 カヲ減殺シテ爲シ得ル之ヲ殲滅スルニリ」ト説ク者多シ。然レ和漢ノ古兵家戦闘
 戦術上ノ目的ニ就テ戰事戦後等ノ目的ト事ヲ單ニ敵ヲ屈スルニリト説ケリ。右兩
 説何ヲ是トスモ、我々戦士ガ実戦ヲ學ラニ大ナル差別ナリト云ヒ、根本ノ主義異
 ナク自然ニ戦闘ノ方法モ異ナリ故ニ、聊カ理論傾クニシテモ簡單此等ノ諸説ニ

討る私見ヲ附述セトス

有る所説ヲ比較スニ秦西兵家ノ諸説敵最大損害兵或ハ為得之ヲ
 滅セトスルカ如キ今其敵ヲ殺シテ無キ者モトス殺敵主義ニ敵殺傷スルハ此主義
 目的トスル処ナリ又和漢ノ兵家ノ説敵意志ヲ屈シテ我ニ服従セトスル敵ヲ殺
 シテ敵ヲ殺傷スルコトナルモソハ唯ク敵ヲ屈スル手段トシテ用テナリ即チ前者殺敵目的
 トシ後者殺敵ヲ手段トセハ今テ單純ナル一例ヲ以テ之ニ對シテ茲ニ相格闘スル兵アリ
 ト假定セシメ殺敵主義ニ飽ク迄モ對チ生命ヲ斷ツ目的トシ之ニ多ク敵ヲ殺
 部斬終ニ咽喉ヲ衝クニ敵モ亦同一意志ヲ以テ之ニ對抗スル故ニ其格闘慘
 烈ニテ敵倒傷モ我モ亦大傷シテ起ツ能ハサル被害甚クナル得ス何トシハ
 人傷ルモノ必ス又已シモ傷ツクモノノ十六ナリ之レ及ビ屈敵主義ニ為得ル限
 リ敵殺傷スルヲ避ケ單ニ之ヲ屈伏セシメテ手段トシテ或之ヲ疲勞トシテ或ハ其我
 奪奪ヒ或ハ其手足ヲ傷テ以テ其抵抗力ヲ減殺シ遂ニ我ニ屈伏スルノ已ム得ナ
 ルニ至ラズルヲ目的トスルヲ以テ敵ヲ最後迄抵抗スルヲサハ其生命ヲ斷ツコトナリ即チナ

屈敵主義、最後ノ手段ヲ盡シタル結果、殺敵主義ノ目的ヲ達スルモノ一致ス。故此主義ニテハ常々多ク時間ヲ要スルヲ免レサルナリ。

本来戰鬥ノ久クハニ殺傷ヲ意味スルモノナリト雖モ、殺敵主義、如ク我損害ヲ犠牲トシテ飽シ、追モ其敵人ヲ殺サ下スルノ必要ナク、爲レ得ル撃沈セリ捕獲シテ我有トナスニ如カナルナリ。故ニ殺敵ノ決シテ戰鬥ノ本旨ニテハ、戰鬥ノ戰術上ノ目的ハ和漢兵家ノ説ク如ク敵ヲ屈スルニテトスルヲ適當ナリト認ム。然レトモ未ダ完全ナル戰鬥力ヲ有スル敵カ初メ並ニ屈伏スベキナラシムル其目的ヲ達スル手段トシテ、或ル程度迄殺敵ヲ行ハサル可キナルハ論ヲ俟タズ。加之迅速ヲ貴ク兵術ニ於テハ漫リニ主義ヲ拘泥シテ屈敵ニ努メ徒ラニ時間ヲ消費ス可キナルハ以テ迅速ニ敵ヲ屈セトセハ勢ヒ激烈ナル殺敵手段ヲ施サル可キナルナリ。

前記兩説、外戰鬥ノ戰術上ノ目的、就テ諸兵家ノ説ニ異同ナキニテ、ナルモ歸着スル処ハ大抵此ノ兩説ノ一ニ過ズ。就中戰鬥ノ戰術上ノ目的、敵ヲ勝ツナリト説クモノナリ、一見其要ヲ得タル如シト雖モ、本来勝ツト云フテハ容易ニ名状シ難キ語

尤以之適當、思說ト認人難シ。尚十勝敗ニ関スル之及節詳論セトス
 斯ノ戰鬥戰術上ノ目的ハ單ニ敵ヲ屈スルニアリトスル此敵ヲ屈スル程度ニ等差
 ナカサル可マシ。即チ絶對的敵ヲ屈シ得ルモアルハ又或程度迄比較的敵ヲ屈スル
 場合アルシ。古來戰例ニ示スル依テ絶對的敵ヲ屈得ルハ殆ト稀ニシテ
 多クハ或程度迄敵ヲ屈得ル止リ又屈敵ノ目的ヲ達スル能ハサルニ止テ敵
 屈モエ、コナリ、兩兩相対抗スル兵軍各其敵ヲ屈スル目的トスルモ其敗者常ニ
 敵ヲ屈セラレモナリ。而シテ其屈敵ノ程度ハ其戰鬥戰略上ノ目的ヲ達スル否
 トニ影響スル故ニ前段述ヘタル如ク戰略上ノ目的ヲ服膺シテ戰鬥スルト固ヨリ
 必要ナシトモ也ニ敵ト対スル至テ先ツ戰術上ノ目的ヲ達スル直接ノ要件ナリ
 上、但ニ戰術上ノ目的ヲ達スルト同時ニ常ニ必ズ戰略上ノ目的ヲ達シ得ラルモノナシ。
 例ハ茲ニ敵ノ陸軍場陸ヲ阻止スル戰略上ノ目的ヲ持テ、艦隊ノ敵ノ上陸地矣志
 發シ、敵ノ揚陸掩護艦隊ヲ擊破スル程度迄戰術上ノ目的ヲ達得リト
 スモ尚陸軍ノ揚陸ヲ阻止スル能ハサル場合、如キ是ナリ彼ノナル海戰、如キ

戰略上目的ハ未ダオシ、埃及攻略ヲ阻止スルヲ以テ實ニ類シキ大勝ヲ以テ殆トシ全
 然敵ヲ屈シ得ヌモノナリトモ、尚ホナホレシハ依然埃及攻略ヲ遂行スルヲ得、其
 當時於テハ未ダ充分ノ戰略上目的ヲ達ス能ハザリ、然レトシテアルガ、海戰戰術
 戰略上目的ヲ戰術上目的ニ兩方共ニ達成セシキ好適例ナリ。
 戰鬥戰術上種別戰鬥戰術上目的ヲ達スル程度ニ下前速セルカ如シ。此
 敵ヲ屈スル程度ハ戰ツテ後ニ之ヲ知リ得ルモノナリトモ、戰鬥ハ常ニ戰ハル前此屈敵
 程度ヲ鑑定シテ決戦スルモノナリ。若シ此程度ヲ鑑定シ過不足アルカ、過クハ我方ハ
 ハシテ却テ敵ニ屈セシ又不足ナルハ得ルヘキ勝利ヲモ亡失スルモノナリ。而シテ此敵ヲ屈スル
 程度ヲ鑑定シ主シテ彼我戰鬥力優劣時象地形利害即チ當時戰勢如何
 何ノ考慮ヨリ未ダモノニテ、當該對抗軍ノ意志ニヨリ或ハ全 然敵ヲ擊滅又
 捕獲スルニ或ハ擊攘擊退ニシテトシ屈敵ノ程度ニ差等ヲ生シテ或ハ決戦トシ
 又屈敵算シテハ退却戰トシ、退却又敵戰ヲ強ク追撃戰トナルハ、即チ戰術
 戰術上目的ヲ達セトス對抗軍ノ意志ノ程度準シテ戰鬥ハ左記ノ如種別

セラレモノナリ

- 一 決戦
- 二 對峙戦
- 三 追撃戦
- 四 退却戦

第一決戦ト積極的戰闘戰術上目的達セトスル戰闘即完全敵ヲ屠シ

トスルモノヲ謂フ

第二對峙戰^戰消極的戰闘戰術上目的達セトスル戰闘即充分敵ヲ屠シ

カ能ハサルモ我ヲ敵ニ屈サレサントスル戰闘ヲ謂フ

第三追撃戦ト我ヨリ退却セトスル敵ニ對シ積極的戰闘戰術上目的ヲ

達セトスル戰闘ヲ云フ

第四退却戦ト敵ヲ避ケ消極的戰闘戰術上目的達セトスル戰闘謂フ

如戰闘種別モ亦對抗軍ノ方ヨリ主觀的ノ人類ニ名モ云凡戰闘如相對的ニ

成スルモノニテ其方ニ於テ決戦セトスルモ他方對抗戰ヲ以テ之ニ對抗スルモノトモ云故ニ同

一戰闘ニ於テ對抗軍双方見界ヨ異ニル場合少カラス又一戰所經過中戰

闘變化進言戰況モ變化シ来リ初メ對抗軍双方決戦目的以テ合戰

スルモ、其一方利アラルトモ、已今得ス退却戦ヲナシ之ニ及シ他方追撃戦ニ移リ或
父對持戦中戦機發展見テ決戦ニ移リ必ツモ一戦ニ
通シ同種戦ヲ終始スルモノナラザリ

第三章 戰鬥勝敗及戰果

(勝敗界説) 夫勝謂_レ敗ト謂_レト吾人常_ニ凡百_ノ事_ニ於_テ輸贏_ノ結果_ヲ
 言現_ル通語ト_{シテ}之_ヲ用_フト_モ抑_モ勝_ト敗_ト如何_ノ現象_トカ_、又_モ敗_ト勝_ト對_シテ_モ如
 何_ノ差異_トヤト_ハ決_シテ_モ適_ニ確_ニ簡_ニ單_ニ說明_シ得_ルト_モカ_、彼_ノ擊_劍柔_術相
 撲_式圍_碁將_棋如_キ最_モ單_純ナル_事則_テ於_テ其_ノ勝_敗判_決ハ_困難_トシ_テ然_レモ
 何_レモ_モ勝_敗判_決ス_ル人_ノ爲_的審_判規_定ヲ_設ケ_ルハ_十六_ノ例_相撲_式柔_術外_ニ出_ツル_手
 地_ニ着_ルハ_敗ト_{ナリ}又_モ將_棋於_テ先_ツ對_手ノ_王將_殺ス_ル勝_トス_ルカ_、如_キ此_ノ如_キ協_定
 規_約依_リ勝_者勝_ト稱_シ敗_者敗_ト眼_トス_ル至_リ此_ノ如_キ單_純ナル_人爲_的審_判以_テ
 勝_敗ヲ_定得_ル固_リ古_來兵_戰於_テ所_謂勝_敗差_解顯_著ト_シテ_モ對_抗軍_二方
 損_害過_少ト_モ及_ヒ他_方多_大損_害蒙_リ又_モ立_ツ能_ハル_事場_合ハ_其勝_敗數_明
 確_トモ_、要_地ヲ_棄テ_戰闘_守於_テ對_抗軍_二方_ノ損_害相_匹俁_トモ_場合_等何_レヲ
 輸_トモ_何レ_ヲ贏_トモ_ハ判_決ヲ_下レ_難ト_モ多_ク古_今戰_例於_テ對_抗軍_二方_共
 二_自軍_戰勝_ト主_張セ_ルハ_少ト_モ改_米諸_兵家_此戰_例勝_敗二_圍種_々異_説ヲ_下シ

或戰終後對抗軍損害比較其少者勝トシ大ナルモウ敗トスト唱ハ
 敵ヲ壓倒シテ戰場ヲ退去セシメ自ラ戰場ヲ上トシテ勝者トシ敵ノ兵整然トシテ自
 由ニ戰場ヲ退去スモ亦其戰勝タルヲ失フト説或又勝利戰術的勝利戰術
 的勝利別テ前者我作戰目的達成スヲ謂シ後者戰場敵ヲ壓倒シ我優
 勢ヲ示ス謂フト註ス如諸説何シモ一理ナキトモ至モ干テ以テ凡百兵戰勝敗ヲ
 判決スル通則トナシ能ハサルヲ如シ戰史ヲ見ル兵力上損害敵比シ多大否モ敵據
 地ヲ占領シ傳クヲトテ戰ニ勝テリトスルモノナリ。又戰場ヲ退却スルモ敵ニ多大損害與ヘリ
 トシテ自ラ勝テリトス実例古今海陸共其數多ク知ス。今又假想一例ヲカンヘ
 茲ニ四隻ヨリ成一艦隊トシ其戰略上目的敵一地ヲ拘束スルヲ以テ優勢ナル十二隻ノ
 敵艦隊ト交戦シ健闘奮戦シ敵四艦ヲ擊沈シタル後遂ニ最寡敵トシ我四艦
 ノ志大破シ沈没シタルトモ普通戰史大抵之後者勝利トシ後世傳フルヲ常トス
 然レモ此戰則於テ所謂利ナキ何ナリモ無論前者ナリテ今若シ更ニ前者ノ友軍ナル
 七隻艦隊此戰終リ未ダ會ヒ已損害敵艦八隻ヲ擊滅シタルモ戰勝ノ級

ヲ全モトト我友軍来リ會シ全局ノ勝利ヲ得クシトモ是或程度迄敵ヲ屈得タルヲ

ニ戰術的勝利モ亦此四艦ノ帰スル前記取説未ク完全ニシテ本末戰術勝

敗ナルモカ戰況如何依リ判決ニ難キナラハ強テ之ヲ明サシメントスルハ却テ兵戰ト與相

ニ遠カリテ空理ニ陷ル弊アルヲ先ス故ニ吾戰士ノ着眼ニテ勝敗ノ空名ニテスレテ其任

務ヲ遂行シテ可成的多大ノ戰果ヲ収メタルヲ銘記セシメ可キ戰果ナキ勝敗ハ一モ勝

者ヲ利スルトナク唯無益ノ殺傷ニ過マルリ以下更ニ戰果ノ就テ說明セトス

(戰果ノ本質)戰果ト兵戰後對抗軍一方ノ其敵對シテ獲得スル有形無形ノ結

果ヲ謂フナリ而シテ兵戰種別ニ準シテ戰果ノ範圍モ大小アリ戰手ノ戰果戰後

ノ戰果又ハ戰術戰果等ニカ別スルニ要ス本節ノ說明セシムルモ戰術直接關係

アル戰術戰果ナリトス

戰術戰果ノ概子左記諸項ヲ含有ス

〔有形の戰果〕

一敵避退ニ基テ戰後ノ擴張並ニ戰略地点及交通線ノ占奪

一、殺傷捕獲等、基元敵軍兵力減殺

二、破壞及鹵獲等、基元敵軍兵器資糧損失

三、打擊、基元敵軍編制崩乱

〔無形の戦果〕

五、我戦略上目的達成若く敵戦略的企圖打破、基元戦略的

戦勢变化及戦略的戦機發展

六、打擊、基元敵軍規弛癢

七、屈敵、基元敵軍志氣沮喪及我軍士氣振聳

以上列記を戦果諸項、其戰鬥攻勢ナル守勢ナル又其本戦ルト支戦ルト或ハ其戦

況決戦的ナル対持戦的ナル等ニテ、其分量大小ナリト雖モ概シテ如何ナル戰鬥於モ此等

諸項幾分ヲ含有セラルトナリ、戦勝此等戦果ノ分量ノ多大ナルハ從ヒ其光輝ヲ発揚シ

價値ヲ大ニシ、若シ戦果大ナラズトモ、假令戦ニ勝ツノ名得ルモ、其実全局作戰ヲ利マレト

真ニ少ク、唯ク敵殺傷ト相共、彼我ノ兵力ヲ減少シ、徒ラ人命ヲ損シ、物資ヲ亡シ、而シテ戦

勢依然トシテ衰スルナク其結果彼我共ニ戦傷疲弊ニ又起テ戦コト能ハス遂ニ第
 三者ノ位置ニ至ル傍觀國ノ利スル至ル特此戦闘激烈ナル程ト益々然リトス。
 此如戦果ノ小量ナル戦闘初メ之ヲ爲サレテ可トレ敢テ之ヲ作爲セ指揮官
 ノ罪寧ロ敗戦ヨリモ大ナルナリ。茲ニ陸戦ノ一例ヲ奉クニ我戰國時代ニ幸テ武田上杉
 兩軍信州川中島ヲ殆ニト戦果ヲ激戦ヲ交テ教回及ニ其戦闘光彩兩軍戰
 術巧妙ナルト戦闘激烈ナルト依リ今尚小我ヲ戰國史ニ飾ルト垂モ當時対抗兩軍ハ
 戦果トシテ何等獲得セシモノナク前後教回ノ合戦ニ兩軍勇將猛卒戦没シタルモ頗ル
 多ク爲シ信玄ノ諛信モ其生雄圖ヲ天下ニ実行スル能ハシテ終ニ織田信長ニ中原
 ノ鹿ヲ獲セシメタルカ如キ當時兩家対隣ノ事情已ム得サシムルモノアリシト垂モ抑モ亦兩軍
 陣拮抗伯仲セシ兵カト兵術ヨリテ戦果得ルコト望ミナキ戦闘ヲ屢々シクル因果クヲ
 カハナシシ其他古来海陸ノ戦例ニ於テ唯勝戦トシテ戦史ニ傳ルルニシテ其戦果ノ
 奉ラレモ甚多ク深戒ノ可キ是故ニ戦士タルモノ戰ヲ敵ニ勝ツトテ先ツ戦ヲ
 幾何ノ戦果ヲ收得得ヘシコト留意スルヲ最要ナリトス。固ヨリ戦果ナルモノ戰後結果ナ

六戦九前其得タルヲ力量ヲ正確豫知不能ハサルニテ是時トシテ計畫上ノ誤業又ハ
 実施上ノ齟齬等依リ却テ得ル知失ヲ知ラ償ハサルニテ又豫期以外多大成果ヲ
 収メテ下キニテラスト至天抵當初ノ計畫ニ於テ幾何ノ犠牲ヲ拂ハセ何ノ戦果ヲ
 収獲シ得ヘシト豫算ヲ以テ戦闘ヲ開始セラルハ方マ。戦後之ヲ知ルカ如キ兵家ノ取ラ
 サルヲ孫子モ勝兵ハ先ツ勝テ而シテ後戦ヲ求メ敗兵ハ先ツ戦テ而シテ後勝ヲ求ム
 ト戒メ居リ而シテ戦果宛カ草木ノ春夏ニ生茂シテ花開キ其花散リ後秋冬
 ニ果実ヲ結ボ如ク戦闘於テ天抵其前半期ニ戦果ヲ収メ難クモテ多ク後半期
 終リニ多大ノ収獲アリモナリ。此前半期ハ概シテ決戦ノ時機ニ属シ宛カモ春光爛熳
 多ク如ク彼我相撃チテ戦闘ノ光景最モ激烈ヲ極メ垂此ノ時機ニ未ク多量ノ戦果
 ヲ見サルモ勝敗漸ク決シ彼我戦疲シ砲聲次第衰ヘ宛カモ花散リクモ後ノ戦後半期
 ニ至リテ漸次ニ戦果ノ収獲ヲ見ルニ。若シ重要ナル時機ニ勝者戦闘ニ倦テ戦果ヲ
 収メテ努力ス戦闘ヲ中止スルモ或ハ追撃ヲ猶豫スル等ノ下テハ人全然無意味ニ戦
 ルモト謂ツル唯々花爛熳タル見テ曰ク喜ハシクモテ其美味ヲ食ハサルト般ナリ。

決戦時機已經過ス我モ損傷シテ疲労大ナリト虫モ更ニ層ノ勇ヲ鼓シテ猛烈
ト追撃戦ニ移リ敵ノ兵力ヲ減殺シ兵資ヲ打破シ尚進シテ要地ヲ略スル等時精
勢ニ應ジテ為シ得限リ多大ノ戦果ヲ収メサル可マモナリ

第四節 戰鬥於攻撃、正奇及虚實

攻撃、正奇、凡ソ兵戰、大小ヲ論キ、敵戰ヲ備リ、敵攻撃スルノ方法ニ正法ト奇法トニ
 種リ。正法ト所謂正々堂々、姿勢ヲ執リ、我實力ヲ以テ敵實力ニ加フルモノニシテ、之ヲ有
 形の方術例トシ、我カ正面ヲ敵ノ正面ニ對シ、力爭フテ敵ヲ攻撃セトスルガ如キハ正法ニ属
 シ、反シテ敵ノ側面ヲ迂回シ、其弱点ヲ槌撃スルガ如キハ奇法ナリ。又之ヲ無形の方術就
 テ例トシ、白晝、我カ行動ヲ隱蔽セトスル、我兵方ヲ敵ニ示シ、我ニ對シ、戰備ヲ整ヘシ、對等
 ノ情勢ヲ以テ交戦スルガ如キハ正法ニシテ、夜中、敵備ハナキニ乘リテ不意ニ之ヲ襲撃スルガ如
 キハ奇法ニ属ス。即チ正法トハ、我實ヲ以テ敵ノ實ニ對シ、正當攻撃スルノ義ニシテ、奇法ト
 詭道ヲ用ヒ、我實ヲ以テ敵ノ虚ヲ攻撃スルノ意ナリ。近世ノ兵學上ニ於テ、方術的正奇
 攻撃法ヲ正擊及奇擊ト謂ヒ、心術的正奇攻撃法ヲ正攻及奇襲ト謂フ、而シテ
 之ヲ應用スルニ當リ、方術、正奇、心術、正奇ト、配合ニ依リ、正攻、正擊、正攻、奇
 擊、奇襲、正擊及奇襲、奇襲、奇襲、由類ニ變化シ、前記四種ノ攻撃法中最モ効力
 多キヲ奇襲、奇擊トシ、戰士ノ常ニ取テトスル処ナリ。

上記セラルカ其心術ト方術ニ論ナク正法ハ我実カヲ以テ敵ノ実カニ對シ攻撃スルモノナルヲ以テ
 我兵力ノ敵ヨリ優勢ナリト可ク換言スルハ優者ニテラリハ正法ヲ以テ攻撃スル能ハス之ニ反シ我
 寡ヲ以テ敵ノ衆ニ對抗セシ固ヨリ実カノ足ラサルモノナルカ故ニ奇法ヲ以テ攻撃セサル可ク
 即チ劣者ハ奇法ニ依ルテラリハ勝利ヲ獲ルニト難シ。是レ兵力ノ優勢ヨリ生ル自然
 ノ理勢ニシテ優者ハ正法ヲ執ラントシ劣者ハ常ニ奇法ニ依ラントスル所以ナリ然レトモ優者
 又必ス常ニ正法ヲ執ルハ正法ヲ以テ攻撃スルトモ其戰鬥ノ單カ手ノノトナリ
 假令戰ニ勝ツモ彼我相殺傷ニテ多大ノ兵力ヲ損失シ我損害モ犠牲ノ大ナル比シ
 得ルル戰果ハ比較的僅少ナルヲ以テナリ故ニ優者モ亦奇法ヲ併用セサル可ク况ニ
 彼我殆ント均勢ノ勢ヲ以テ相戰ル場合ニ於テヤ
 本来兵術ハ詭道ニシテ奇法ヲ用ルハ戰術ニ依テ成スル所以ナリ。例ハ艦隊戰鬥ニ於テハ
 術方術共ニ正法ヲ執リ對抗兩軍一樣相近接並航シ各正撃法ヲ以テ互ニ砲戰スル
 嗚呼砲術ノ力ヲ止リ彼我相殺傷スル過ニスレバ砲術ニ練達セルカ能力大ナルモ
 ヲ制シ茲ニ是モ戰術ノ効用トシテ見ルヘキモノナシ。然ルニ對抗軍一方カ可殺手法ヲ執

敵先頭若後尾統回し其全線砲火敵上端集中得如標縦
 至リ初メ戰術効用實現スルモテ所謂丁字戰法也亦此奇數法適用
 外ナルトリ之依リテ之見ハ戰術奇法依リテ成ルモト謂ハル可也然リ戰術本貴
 方術心術共奇法ヲ執ル正法優者ト云フ好テ執ルモテ然リト云フ奇法必ツモ
 終始執リ得ハモト云フ假令我ハ奇法以テ敵ノ弱点弱兵点攻撃セラルシ敵常正法以
 テ我對セテ遂ニ虚ノ乘スヘキナリ弱点ノ生ルナリ如何セシ抑モ兵戰相對的成ルモト云フ我
 奇法ヲ執ラントスルト等シク敵モ亦奇法ヲ好テ執ル奇ト奇相對スル正ト正相對スルト
 一般ニ其奇ヲ所以ヲ失ス是於テカ戰術應用ニ關ル正奇保用ノ原則ヲ生ス此原則
 古兵家格言名凡ソ戰者以正ヲ合ヒ以奇ヲ勝シ是ト云フ此言與テ簡單ナリト云フ其意
 味頗ル深長ナリ蓋シ正ヲ以テ合ヒトハ敵ヲ正奇何レノ攻撃法ヲ以テ来ルモ我ハ常ニ正實
 カヲ以テ之ヲ對シ敵ノ虚ヲ示スヘカヲ云フ意味也又奇ヲ以テ勝ツトハ戰機ヲ見テ敵ノ虚ヲ乘
 レ弱点ヲ衝キ勝利スヘシト云フ意味也又正法ハ人間衝撃ノ大本ナル故ニ先ツ正位ニ
 我ヲ置キテ敵ノ乘ス能ハサシテ然ル後奇法ヲ敵施シ勝利ヲ制スヘキモノナル故ニ第一正

ヲ以テ合ヒトト説キ、第二「奇」以テ勝ツト教フルナレシ。而シテ先ツ正法以テ敵ニ對シ、已ニ
 前段ニ述ヘル如ク優勢ヲ兵力ヲ以テ敵ニ臨ミ、其ノ可キナリ。故ニ先ツ敵ニ對シ、我カ優勢ヲ保ツルカ
 正法ヲ意味スルニ至ルナリ。即チ戰略ノ原則トシテ、敵ニ對シ、戰場ニ我カ優勢ヲ占ムルハ、我カ諸
 隊ヲ運用セシムルモ、戰術上先ツ正法ヲ執得スル方ノ有ルニ必要ナルヲ示ス。固ヨリ我カ諸
 勢ナリト雖モ、頻リ「奇」法ヲ施シ、優勢ヲ敵ニ勝得ルニシテ、敵ニ亦戰術ニ熟達スルニ至ルニ至
 底「奇」法ノミヨリ用フル能ハサルナリ。今之ヲ最モ単純ナル相撲ニ例シ、相撲戰術ノ優者ナル大関
 ノ資格ニ先ツ第一ニ充分ノ体力ヲ具備スル如何ニ對シ、正法ヲ執得ルル方
 量ヲ有スル同時ニ「奇」法即チ相撲ノ手ニ熟達セラル可ク、彼ノ所謂手取り力士即チ
 「奇」法ノミヨリ立ツル力士儼今時全勝トシ、大関ニシテ得ルモ、永ク其位ヲ保ツル難シ。之レ正
 法ノ合フニト能ハサルヲ以テ、又唯シ体力ニ差違シテ、術ヲ力ニ屬シ、敵ニ「奇」以テ破ラレ、ミナ
 力量ニミテ、敵ニ對シ、我カ力ノ餘裕少ク「奇」以テ勝ルニ能ハズ。故ニ兩者共ニ到底大関ニシ
 難シ。凡百兵戰ノ原則ニ亦此理外ニ出スナク、基本戰術於テ、彼ノ所謂「字」戰法、如
 キモ、方術上ニ於テ、正「奇」併用戰法ニシテ、其一隊カ正位ニ立テ、敵ノ正當ニ對シ、他ノ一隊カ

攻撃ノ虚實以上攻撃ノ正奇兩法其應用ニ関スル原則ヲ説明シテモナリ、
 然ルニ爰ニ又正奇以外ニ於テ攻撃ノ應用ヲ複雑トシテモナリ、攻撃ノ虚實即チ虚撃
 実撃是ナリ。虚撃トハ陽ニ攻撃スルモ實際ニ攻撃ノ目的ヲ達セズルヲ謂ヒ又実
 撃トハ攻撃ノ目的ヲ達セシムルヲ謂フ、単純ニ之ヲ言ヒテ前者ハ虚偽ノ攻撃ニシテ後者ハ真
 実ノ攻撃ナリ、此攻撃ノ虚實ハ見攻撃ノ正奇ニ類似スルカ如クナルモ然ラズ、正奇ノ敵ニ虚
 實ニ對シテ攻撃ニ加フルニ就テ云フモノナリトモ虚撃實撃ノ虚實ハ我ニテリテ敵ノ虚實
 ニ關セサルモノナリ、故ニ実撃モ正法ヲ以テスルモノトシテ奇法ヲ以テスルモノトシテ又虚撃モ正法ト奇法ト別
 テリ、例ハ正面ヨリ正堂々攻撃スルト見セテ敵ヲ牽制スルカ如クハ正法ノ虚撃ニシテ又夜中不時ニ
 空放ヲ放チ探海燈ヲ点シ奇襲ヲ装フカ如クハ奇法ノ虚撃ナリ、故ニ敵ノ攻撃ヲ受ケルニ
 ハ先ニ其虚實ヲ判断シテ正奇何レヲ以テ攻撃シ来ルヤヲ觀察スル、然ル後之ニ對スル適
 當処斷ヲ行ハルヘカス、此実撃虚撃兩法ヲ巧妙ニ應用スルトハ敵ハ我カ実撃ノ点何
 レカヲ判断スル能ハシテ其防禦スルヲ知ラズ、是ニ於テ敵ニ某マテノ虚ニテ見ル機
 ヲ失セズ、正奇兩法ヲ適用シテ実撃ヲ加ヘテ敵ノ撃ヲ破ス、孫子曰ク兵ハ詭道ナリ、故ニ

能クテ而テ之能ハナルヲ示シ近キテ而テ之遠キヲ示シ遠キテ而テ之近キヲ示シ利キテ而テ之誘ヒ乱シテ而テ之ヲ取其備無キ攻メ其不意ニ出ヅト此格言戦略上ニ適合スルモ亦戦術上ニ於テ前記虚実正奇諸攻撃法ヲ戦陣ニ適用スル要訣ヲ形容教示セラルモノナリ。而シテ実撃虚撃モ正奇両法ノ如ク其應用ノ變化窮リキモ虚撃ヲ為シ一隊戦械ニ乗テ急ニ実撃ニ轉スルコト或ハ又実撃セル一隊戦勢ノ不利ヲ察シテ中途ヨリ虚撃ニ變ルカ如ク之ヲ應用スル方法ニ至リテ固ヨリ一定原則ニテモ唯戦勢ト戦械ノ轉變ニ應ジテ臨機應變スルニ正奇両法應用ノ變化窮リキト前段ニ述ベタル如クナリ。尚ホ其以上ニ実撃虚撃亦用ノ變化窮リキヲ知テ戦術ノ應用カキ變萬化スベキ言フコト俟クサルコトモ唯適當ニ法ヲ適當地ニ於テ適用スルモ勝利ヲ制スルコト外ナシ而テ此適用ヲ誤ラサントスルニハ我力量ヲ知ト同時敵力量ヲ知我カ為スル處ヲ了知スルト同時敵ノナサントスル處ヲ察知シ能ク戦勢ヲ觀察シ戦械ヲ先見スルノ智能ヲ具備スルニテラリハ能ハサルナリ。是ト豈ニ独リ兵戦ニナラザヤ凡百人軍塔然ラハナシ。然レトモ兵術ハ元ト詭道ナルヲ以テ彼正奇虚実ノ用法等ハ決シテ平和人事ニ應用スベキモノナラズ唯戦時亂世

ニ此ノ^ノ概ヲ思フ^テ手段トシテ通用ス^ル兵術ヲ講究シ其理性圖熟域
達セサル者知ラス識ラス^ニ裸^ニ其平時言動^ノ術理ヲ濫用シ往々世ヲ乱シ治ヲ破ルニ至
ル。蓋シ兵術モ其深奥ニ至テ正法大本ナルヲ悟得スルカ^ハ久^ク人道於テモ公明正大ハ
其大本ニシテ所謂策士ナルモノ^ノ常ニ成功ス^ルモニアラス